

わく
この一偈の経文を唱へて、東西南北に各七步宛歩行し、親ら今番世間に出現し給ひし

天てんじよ
天てんじよ
皆い苦く
我が獨り尊ん

天てんじよ
天てんじよ
皆い苦く
我が獨り尊ん

御誕生遊ばさるるや右手を揚げて蒼天をさし、左手を下げて大地を指して獅子吼し給ひ

出で御誕生の儀を現されし靈地であります。

涅槃國嵐毘尼園は、およそ一千六百年の往昔大聖衆迦牟尼世尊、悉も一切衆生を

南無妙法蓮華經

昭和四十八(一九七三)年一月二十五日

—29—

嵐毘尼園伽利塔地鎮祭法語

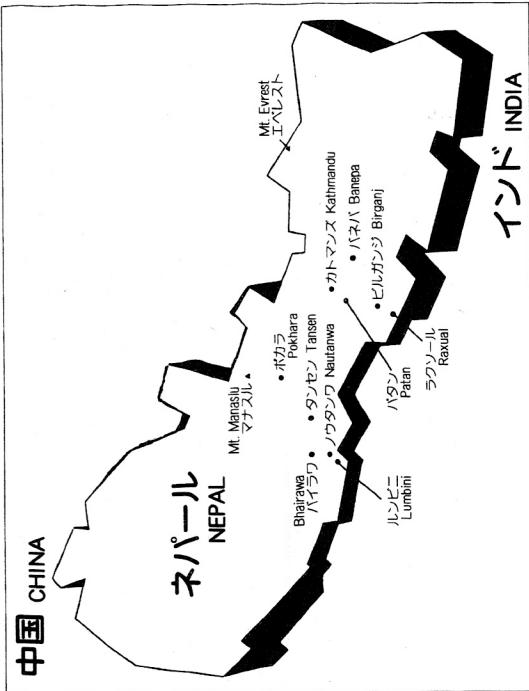
日本妙法寺藤井日達山主法話

祈願する者は、金鼓の妙音声を聞く事を得て、能く求むる処を皆、満足せしめん。
得ば、即ち能く苦を離れて人に帰依せん。乃至、「一切天人有情の類、殷重至誠に
衆生有つて悪趣に處し、大火猛炎、身に周遍せんに、若し是の妙鼓の音を聞く事を
大千世界に至り、能く二途極重の罪、及び人の諸の苦役を滅す」。乃至、「若し
光明最勝王経夢見金鼓懺悔口第四に曰く、「金光明鼓、妙音を出し、遍く三千
える四天王護国の経文が実現せんことを祈る者であります。

如来八相成道の靈地ネバール国に一日も速く仏法が復興し、光明経に説かせ給ひ

—28—

金光明鼓



因縁を宣言遊ばされました。この日、天地
の中に三千世界に嘆きの声なしといふ不思議
が現れて、一切衆生は歡喜に満たされました。

聖尊一代八十年神通遊戲の處、後生の衆
生深く恋慕渴仰して塔を建てて礼拝供養いたしました。

一には御誕生の嵐毘尼園

二には降魔成道の仏陀伽耶道場菩提樹下

三には初転法輪の鹿野苑、出世本懐の説

法 精鷲山

四には御入涅槃の俱尸那城沙羅双樹下

以上四力所を靈跡の中にも特に四大靈跡

-30-

と称します。しかるに星霜推し移り、如来の聖教も正法一千年、像法一千年を過ぎて、末法万年の時代に入り、利生功德も次第に薄らぎ、邪見の嵐風・毘嵐風は闘諍堅固の大火焰を煽り、將に衆生生存の時代も尽さんとして、国土世間・衆生世間・五陰世間の法界全体を焼き尽くさんとするに充分の準備はすでに調いました。人類全滅の試験は局地的に行われつつあります。広島・長崎の原爆投下より、最近越南(ベトナム)北爆の暴虐は則ちそれであります。爆弾に対する爆弾、機械に対する機械の戦争は、侵略も自衛も、道徳的にも宗教的にも、いかなる名義を用いても、結局人類全滅の悲劇を演ぜざれば止みませぬ。

人類はその全滅の危険から遁るる道を求めて、殺人破壊の暴力戦争のはかに、精神的な非暴力、平和安穏の社会を作らんがために、但行礼拝の儀相を採用し、不殺生戒の信念に住して、悪人成仏せしめねばなりませぬ。これは機械力も爆弾も強く為し得る所ではありませぬ。唯聖尊の教訓を信受するよりほかに何の手段もありませぬ。人類は今、改めて教主聖尊出現の意義を検討せねばならぬ時代に入りました。

ここにおいてウ・タント前国連事務総長は、西紀一千九百六十七年聖尊降誕の聖地嵐

-31-

思ニ園復興計画を提案し、十二カ国 の代表が国連本部において嵐毘尼園開発委員会を設置して復興計画を考案しました。今その復興計画案を検討すれば、一には嵐毘尼園と倍羅和空港に通する道路開通、二には巡拝者村の建設、三には綠地帶の設置、四是世界各佛教国の僧院建設地 設定、五には神聖なる庭園の造作 この計画案によつて第五の神聖なる庭園の中心なる阿育王(アショーカ王)の碑柱より半径一・五哩以内の地には一切の建造物を禁止することを決議しました。この決議にしがつて、宝塔建竊も已むを得ず阿育大王の碑柱より一・五哩以外の地に建設せざるしかるにこれに先立ち一千九百三十三年より翌三十四年にわたりて行われたる考古学者上の発掘によつて、嵐毘尼園の宝塔並びに仏殿跡僧坊跡の煉瓦の基礎と如來を安置する台座とが発見されました。これによつて往昔の嵐毘尼園とは宝塔仏殿仏像僧房とをもつて

五には神聖なる庭園の造作
この計画案によつて第五の神聖なる庭園の中心なる阿育王（アシヨーカ王）の碑柱より
半径一・五哩以内の地には一切の建造物を禁止することを決議しました。この決議にしがつて、宝塔建立も口どまを得ず阿育大王の碑柱より一・五哩以外の地に建設せざるを得なくなりました。

建設されたりしてこれが判ります。委員会の復興開発計画には大宝塔の建設と仏像台座大仏殿と僧院の建設とが往昔の嵐毘尼園の構成に对照する時、欠落しておきます。これで私は復興の意義を失います。

反対に緑地帯の設置や巡拝いじじに寺院の建設、ときき新開発計画が加わっております。このとき新計画案は釈尊降誕の嵐毘尼としては寧ろ第一義的のものであります。巡礼者村を設置して、宝塔建立を制するといふが、とにかくときは、嵐毘尼園復興開発を誤るものではありません。雪山の山麓にして綠地は眼に余つております。現在、農民部落の間にも往々猛虎が出没します。もし三哩以内の農民を他方に移動して、一帯を綠地化する時、あるいは猛獸の住む恐ろしさえもあります。委員会の復興開発計画の中心たる、いわゆる神聖なる庭園の本尊とする阿育大王（アバク）カ王（カウ）の碑柱も、また釈尊降誕生の光景を彫刻せる摩耶夫人堂も、これらは一種の記念物であります。阿育大王の石柱は印度に數基存在しておりますが、いずれも仏教徒の礼拝供養の対境ではあります。摩耶夫人は嵐毘尼園としては仏教徒の礼拝供養の対境ともなりますが、堂内にはわずかに十名を容る広さもあります。新計画の中に摩耶夫人堂の拡大新築の計画がないのに何がわからぬ。

以上の三条項であります。

たる如来寿量品に、
「衆、我が滅度を見て、広く舍利を供養せよ」

宝塔の建立は教主釈尊より山八年の間、妙法蓮華経を説かせ給いし、その法華経の神體す
に八大国の大王は各々釈尊の御舍利を持つて、国に帰り宝塔を立てて供養しました。
とにかく滅後末代の衆生に垂示遊ばされました。これによつて俱口シナじゆくが城御入滅後、ただ
ちに八大国の大王は各々釈尊の御舍利を持つて、国に帰り宝塔を立てて供養しました。
それより一百年の後の阿育大王は八塔の舍利を分かつて、八万四千の宝塔を建て、世界

塔を建てて供養礼拝の本尊として崇めました。

平和建設の本尊とされました。爾來、今日に至るまで、仏教徒の間には舍利を求めて宝
摩天をして仏像を造らしめました。この仏像が利天に本仏釈尊をお迎えに昇らせ給つた
に、夫人の生まれておわす忉利天へ昇らせ給いし時、優填大王が赤栴檀を用いて毘首羯

次に仏像の彫刻は釈尊在世に始まりました。釈尊が仏母摩耶夫人の恩を報ぜんがため
と語り伝えられてあります。

佛像は生身の釈尊に似せて奉り、二十二相八十種好の端嚴微妙なる形相を示して、

園の仏像彫刻は生身の悉達多皇太子の誕生を記念する唯一の本尊であります。嵐毘尼

後方涅槃経には生身の仏と滅後の木絵一像とは功德せうじうなりと説かれました。嵐毘尼

衆生世間を利益します。

諸の宗教には礼拝供養の対境を安置します。その対境の中について、端正にして威い

あり、見る者をして歡喜と安穩の象徴であります。無始曇劫より、未だ顯わ

はありません。釈尊の尊像は和平の世界の象徴であります。教主釈尊の尊像に過ぎたる者

はあります。即ち我等己心中心の平和と安穩を求むる心に応じて仏像を彫刻して、これを表現し

ます。即ち我等がこの仏像を礼拝する所以であります。

はどうしたいでしょ。すからく高広厳飾せる摩耶夫人堂を建設すべきであります。

第三に僧院の再建

第一に仏像の铸造、仏殿の建築

今、佛教徒の希望する嵐毘尼園の復興開発計画は

第一に大宝塔の再建

宝塔の建立は教主釈尊より山八年の間、妙法蓮華経を説かせ給いし、その法華経の神體す

以上のみであります。

第三に僧院の再建

第一に仏像の铸造、仏殿の建築

たる如来寿量品に、

「衆、我が滅度を見て、広く舍利を供養せよ」

宝塔の建立は教主釈尊より山八年の間、妙法蓮華経を説かせ給いし、その法華経の神體す

に八大国の大王は各々釈尊の御舍利を持つて、国に帰り宝塔を立てて供養しました。

それより一百年の後の阿育大王は八塔の舍利を分かつて、八万四千の宝塔を建て、世界

塔を建てて供養礼拝の本尊として崇めました。

平和建設の本尊とされました。爾來、今日に至るまで、仏教徒の間には舍利を求めて宝

摩天をして仏像を造らしめました。この仏像が利天に本仏釈尊をお迎えに昇らせ給つた

に、夫人の生まれておわす忉利天へ昇らせ給いし時、優填大王が赤栴檀を用いて毘首羯

次に仏像の彫刻は釈尊在世に始まりました。釈尊が仏母摩耶夫人の恩を報ぜんがため

と語り伝えられてあります。

佛像は生身の釈尊に似せて奉り、二十二相八十種好の端嚴微妙なる形相を示して、

諸の宗教には礼拝供養の対境を安置します。その対境の中について、端正にして威い

あり、見る者をして歡喜と安穩の象徴であります。教主釈尊の尊像に過ぎたる者

はありません。即ち我等己心中心の平和と安穩を求むる心に応じて仏像を彫刻して、これを表現し

ます。即ち我等がこの仏像を礼拝する所以であります。

日本国に仏教が伝来せしは、今よりおよそ一千四百年前、欽明天皇の御宇であります。天皇はまず仏像の端巖微妙なる形相を見て歡喜踊躍し、未嘗有りと称讃されました。日本に仏教の流布する最初は仏像であります。現代日本国仏教は、ほんど仏像の拝觀によつて行われております。奈良の大仏、鎌倉の大仏等は外国の觀光客が日本を読む僧宝とが仏教復興の三条件であります。

本の仏教の象徴として拝觀する処であります。仏舍利を祀る宝塔と、仏像・經典を安置する仏殿と、また宝塔・仏像に給仕し、經卷

正法・像法・末法に展転して伝わることはできませぬ。僧宝は薪のごとく、仏法の利益生きたとえ仏像・經卷はあつても、もし僧宝がこれに給仕し、習い伝えざれば、仏法はは火のごとく、もし僧宝がなければ、宝塔も仏像も經卷も衆生を利益するとは不可能れば仏教の利益はありません。また僧宝は大地のごとく、宝塔・仏像・經卷は草木のごとく、僧宝がなければ僧宝とが仏教復興の三条件であります。

一体三宝にして仏教は世間に常住するこじを得ます。これを常住三宝と説かれました。常住三宝とは人間世界がいかに苦惱、患に充ちても、たとい人類全滅の危機が迫つても、一月に嵐毘尼園に参詣いたしました。これら仏蹟の中、はなはだ荒廢せることが靈鷲山と嵐毘尼園であります。私は佛弟子として悲嘆の涙洒さえ難く、慨然として仏蹟にて、容易く許可されるべき所以もなく、ついに空しく四十余年を経過いたしました。

政府に嵐毘尼園復興計画請願書を提出いたしました。しかしながら無名の一海外僧に對復興を発願いたしました。この中、嵐毘尼園は涅槃國の領土であります故に、涅槃國に宝塔建立案中であります。

印度は独立最初の首相ネルは、みずから委員長となり、王金城復興委員会を結成し、私もその委員の一人に加わりました。ついに王金城多宝山に宝塔を建てました。爾來、四年間毎日數百千の参詣者があります。続いて去年十一月王律作州佳林賀に宝塔落慶供養を行し、今年また華氏城に宝塔建立中であります。

印度は常に救護の力は存在し、救護の方法は存在し、救護の人間が出現するといふ意味であります。

第一に宝塔の建立 第二に仏像の彫刻鋳造 第三に仏殿僧房の建設

を発願いたしました。涅槃留仏教会はござつて、この誓願を隨喜し協力し、涅槃留国政府はこの発願を成就せしめんがために、あらゆる関係機関に指示を与え、かつ地方民衆を指導し懇切に対策を講ぜられました。

これによつて、本日一月二十五日芽出度く、嵐毘尼園宝塔地鎮祭を挙行することができて、多年の誓願たりし嵐毘尼園復興もその端緒に就きました。嵐毘尼園復興はまた現代に仏教復興の烽火をあげ、もつて世界平和の灯明となさんことを希望する者であります。

南無妙法蓮華經

惟時昭和四十八年一月二十五日 行院日蘇大法尼四十三回祥月命日

藤井 日達

（天鼓）昭和四十八年四月号二十一頁（）

奏上涅槃留國皇帝書

南無妙法蓮華經

謹んで一書を皇帝陛下に奏上仕ります。

涅槃留國は釈迦牟尼世尊誕の國にして、神聖にして清淨なる國土であります。しかるに仏滅後一千五百年を過ぎたる今日、釈尊降誕の聖地藍毘尼苑は荒廃に帰して、全然叢林となり、唯わざかに阿育大王（アショーカ王）の石柱と浴池とが往昔の記念として残るのみであります。陛下登極（即位）の初めにあたり、国連においても藍毘尼園復興計画が検討されつつあります。これ偏に陛下の盛徳にして宗教文化開発復興に歴慮を巡らし給うが故であります。

藍毘尼園復興について、私に案するに、釈迦牟尼世尊一代の化導を終わり、御歳満八